

【解答】

問題一

問一 ア 情操 イ 容量 ウ 鋭敏 エ 感觸 オ せいぎよ カ こうきゆう キ きしよう

問二 A ただし B ところが C しかも

問三 子どもは、本を読むから、読み聞かせをするから、字を覚えるのではない。活動性の高い子どもが字を早く覚えていく、読んだ本の理解にもすぐれている、ということ(75字)

問四 i 入力 ii 演算 iii 出力

問五 運動することだけではなく、コミュニケーションを作るための口や表情の動きも含む。(39字)

問六 身体の移動ができるようになってから自然に脳がプログラムを作って覚えていたため。(39字)

問七 人間のように進化すると同じであるという認識を持つが、犬はそれほど進化していないため感覚が人間より鋭敏だから。(54字)

問八 いまの人は入出力関係が単調になっている(19字)

問九 田舎の子どもは、親が意識しなくてもある程度外遊びをする環境にあるが、都会にはそのような環境がないために、親の知識や意識によって外遊びに違いが出てくるため。(77字)

問十 親の知識や意識の違いによって起こる子どもの脳の発達における格差が縮小されるかもしれないという期待。(49字)

問十一 ア ○、イ ×、ウ ×、エ ○、オ ×

問題二

問一 ア 制約 イ 配備 ウ 普及 エ 省 才 起源 カ 頻発

問二 ・ムラ社会・・・閉鎖的で拘束力が強く、個々人の自由を損なってきた集団的社会（29字）

・いまの社会・・・人びとが、自由にいろいろなことをできる社会（21字）

問三 ・社会のさまざまな単位が、集団から個人中心になることをいい、物的側面の個人化と思想的側面の個人化とがある（51字）

問四 ・物的条件
・思想的条件

問五 ・ものの不足を共有でまかない、共同で管理し、共同で使い、互いに協力して生命を維持してきた社会（45字）

問六 ・個性の尊重という形で表れ、画一的な日本の教育に厳しい視線が注がれていた中、「自他の個性を尊重し、自他の個性を生かすこと」に注目が集まって、進路指導も生徒個々人の「やりたいこと」に注目するようになった。（100字）